

男女平等社会づくりに向けた県民意識調査結果【概要】

令和3年3月

男女が共に参画し、多様な生き方が選択できる社会の実現に向けた県のさまざまな施策の充実と、次期「新潟県男女共同参画計画（男女平等推進プラン）」の策定に活用するため、県民意識調査を実施しました。

調査概要

- 調査対象：新潟県に在住する満18歳以上の男女2,000人
- 調査方法：郵送による配付・回収
- 調査期間：令和2年8月17日～8月31日（9月7日到着分まで集計）
- 回収結果：989人（女性513人、男性446人、性別無回答30人）有効回答率49.5%

※結果についての詳細は、男女平等社会推進課のホームページに掲載しています。

URL <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/danjobyodo/2021danjo-r2report.html>

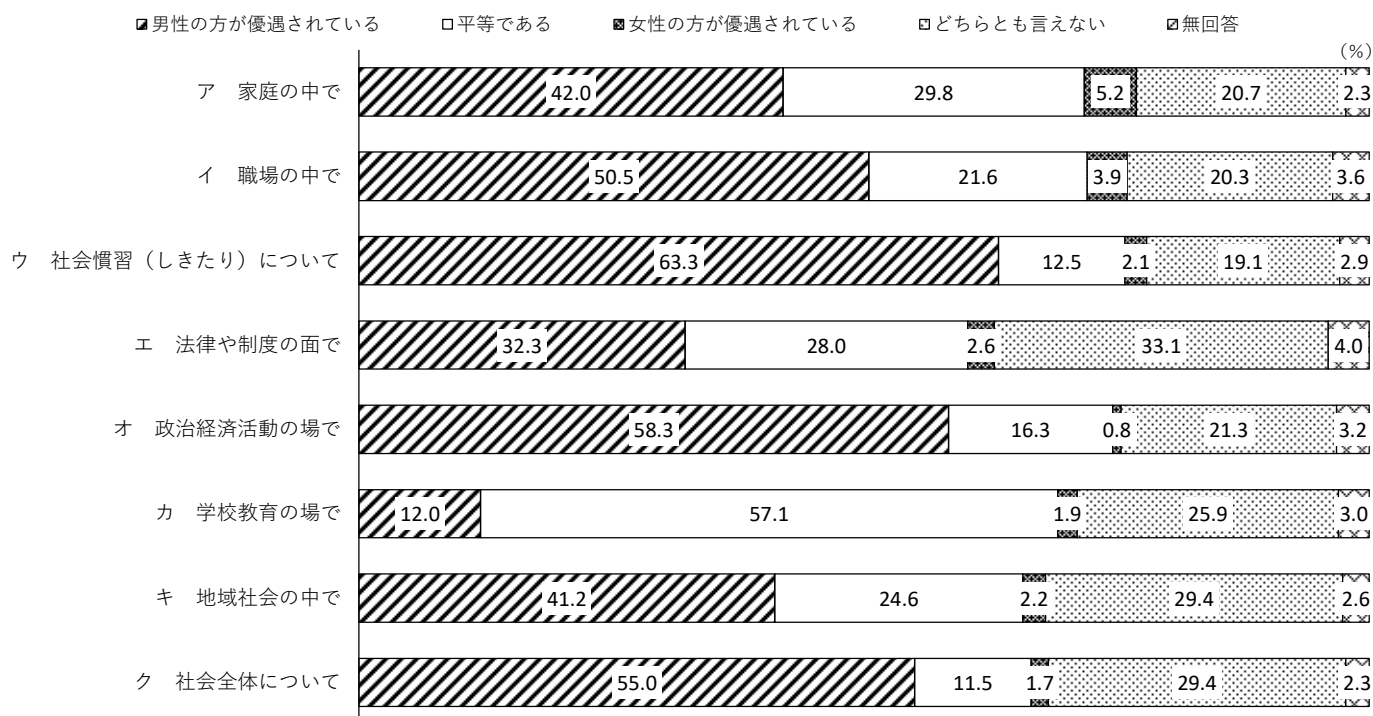
新潟県県民生活・環境部 男女平等社会推進課



結果概要

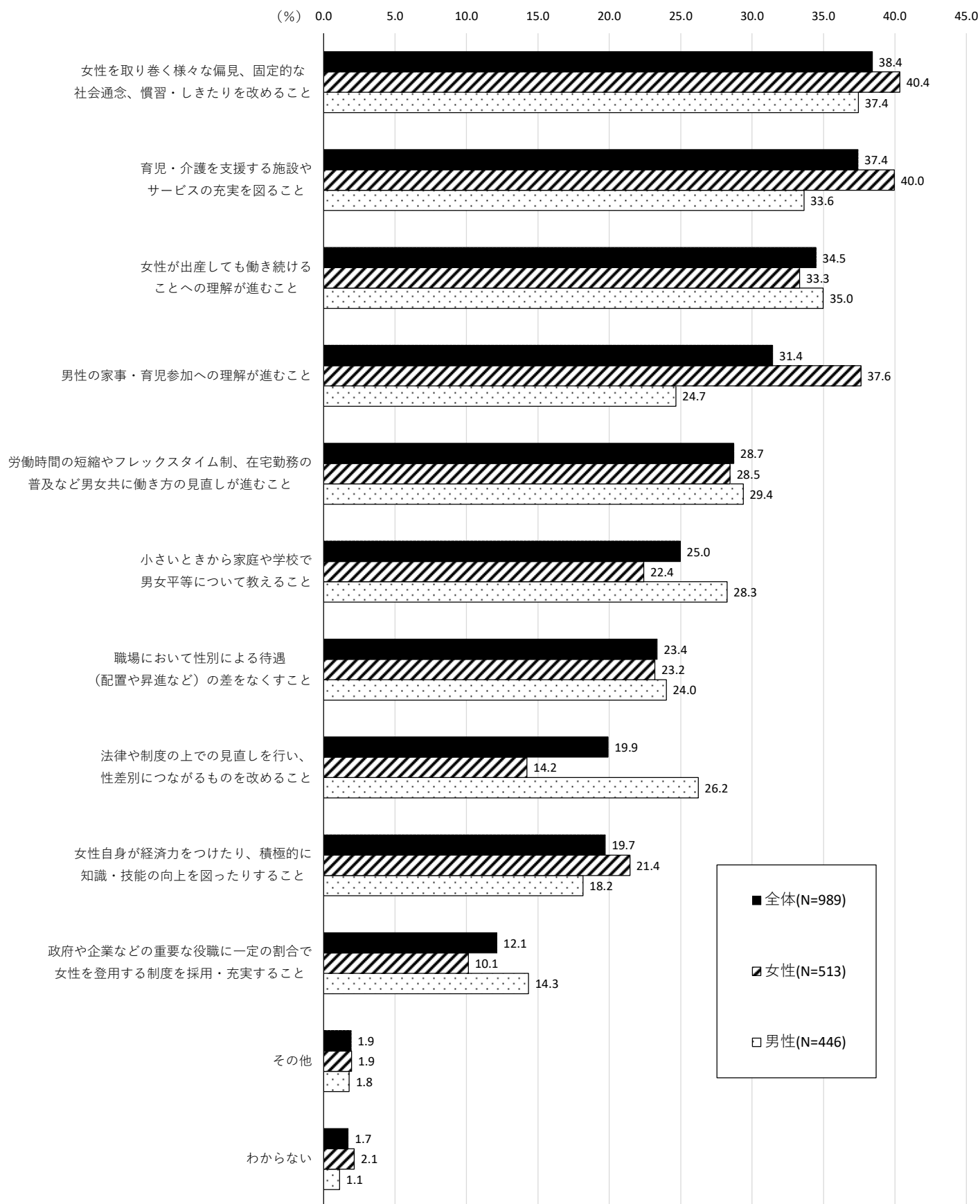
◆ 男女の地位の平等について

「学校教育の場で」以外の全ての項目で、「男性の方が優遇されている」という回答割合が3割を超えている。



◆ 男女共同参画社会の実現のために必要なこと（特に重要と思うもの3つまで選択）

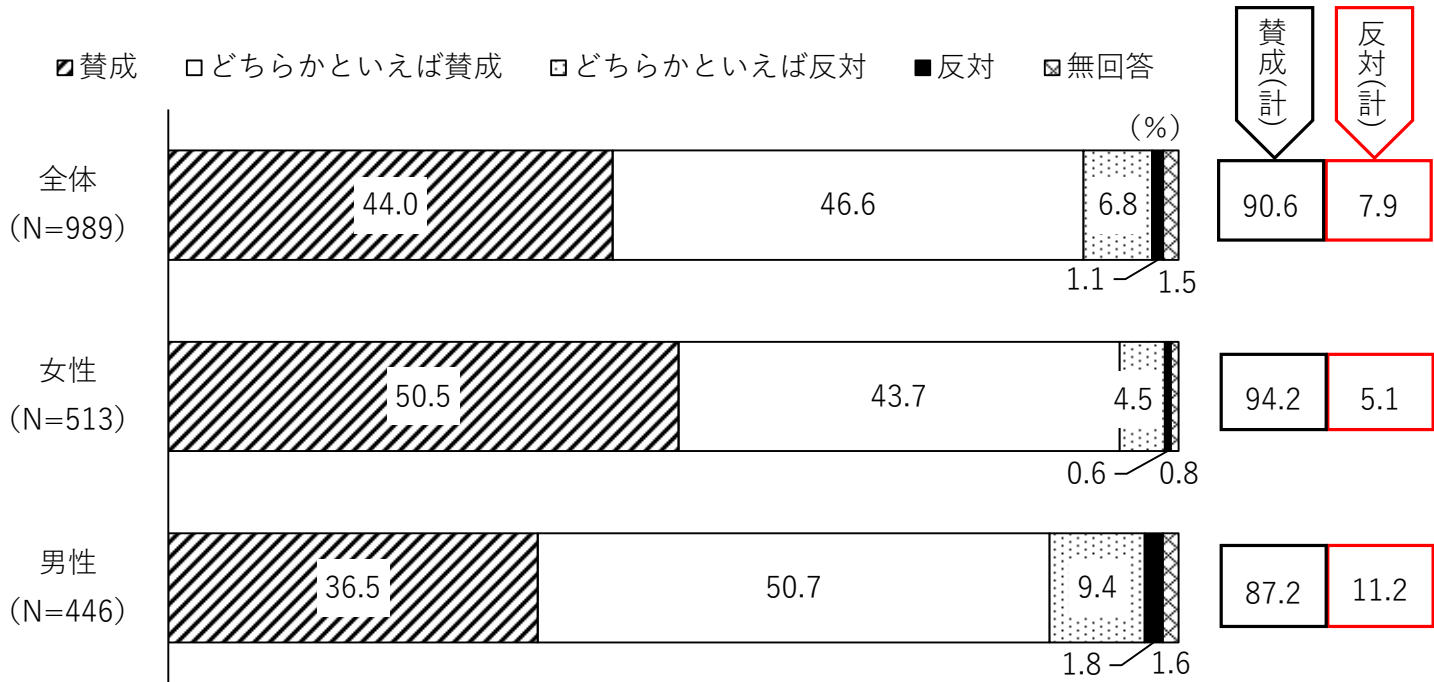
男女共に、「女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念等を改めること」が重要と考える人が最も多い。



◆ 家庭における家事等の分担について

「夫も平等に家事を負担すべきである」という考え方について

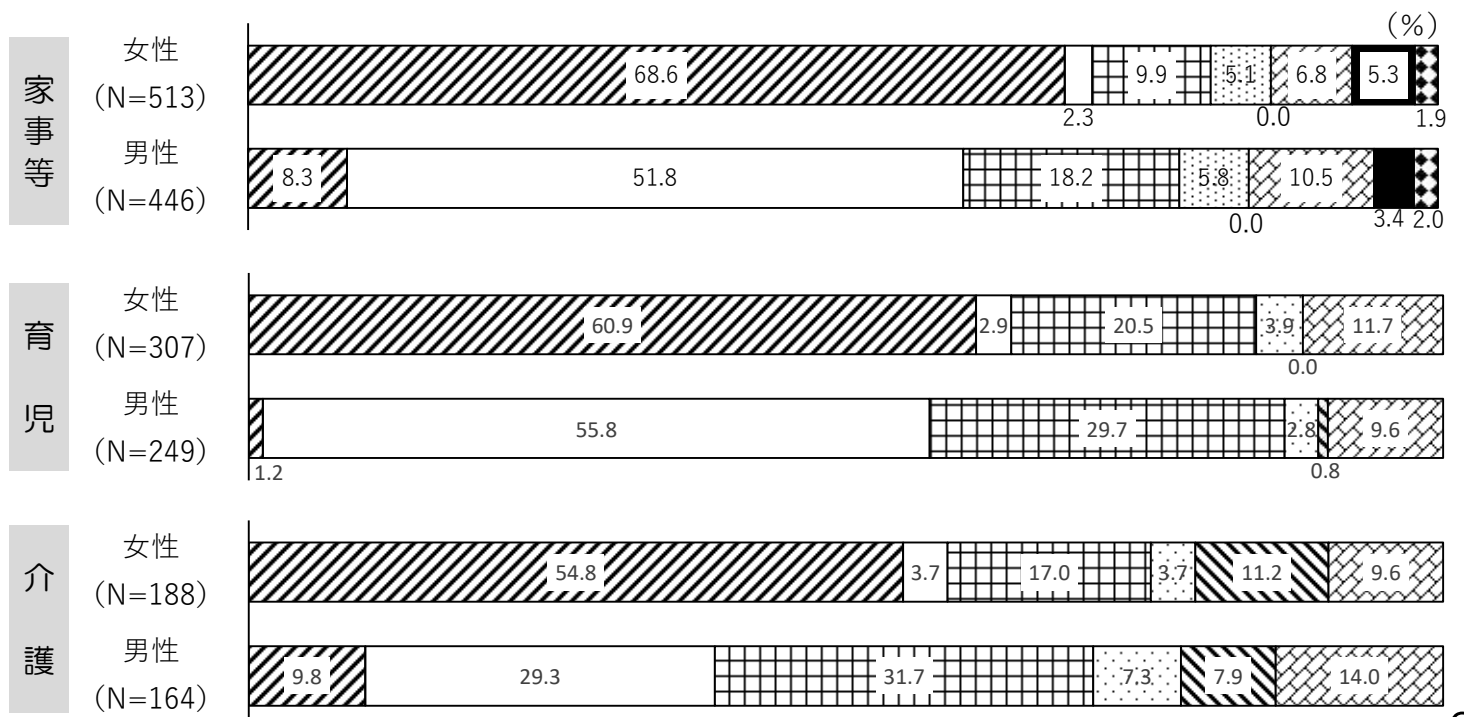
男女共に、約9割の人が「賛成」している。



家庭における家事等の担当者

いずれの項目も、女性が主に担っている。

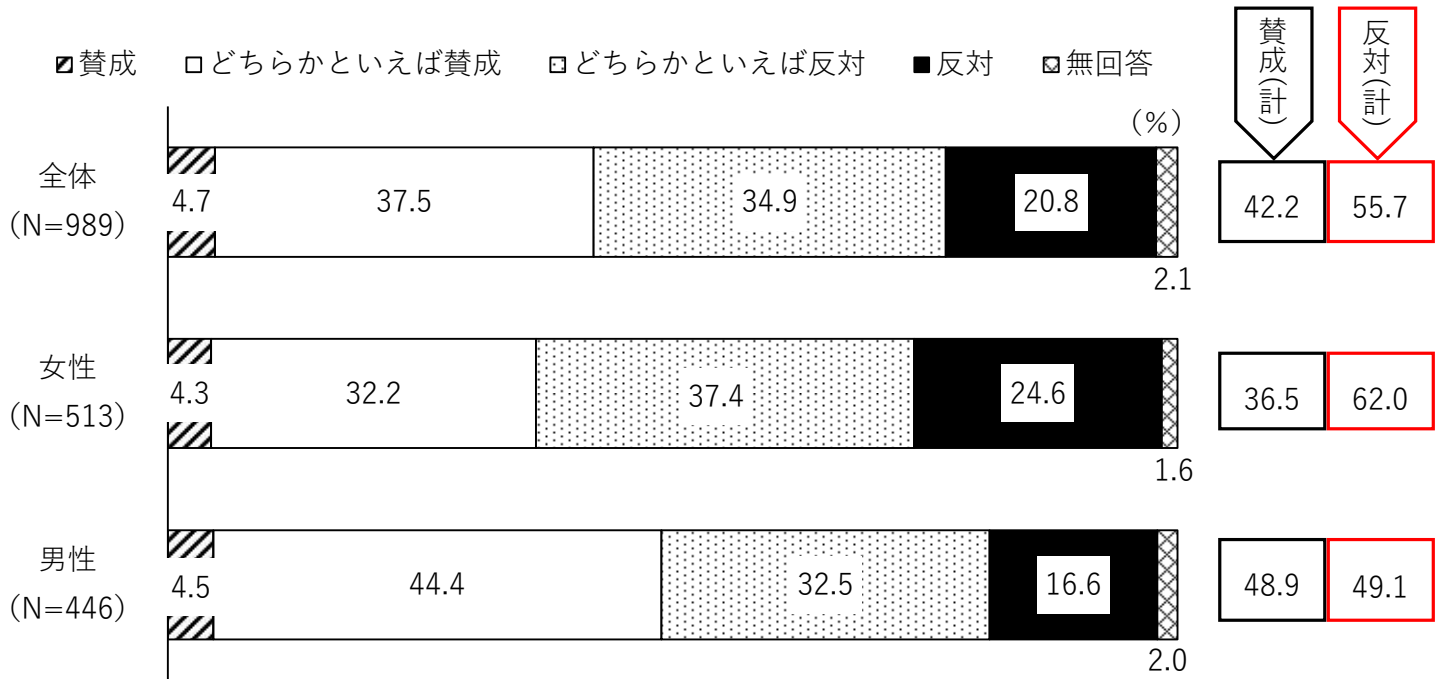
- 自分
- 自分と配偶者が同程度
- ホームヘルパーなどの外部サービス
- 該当なし・その他
- 配偶者
- 夫婦以外の家族
- 家族全員
- 無回答



※育児、介護は該当者のみによる集計

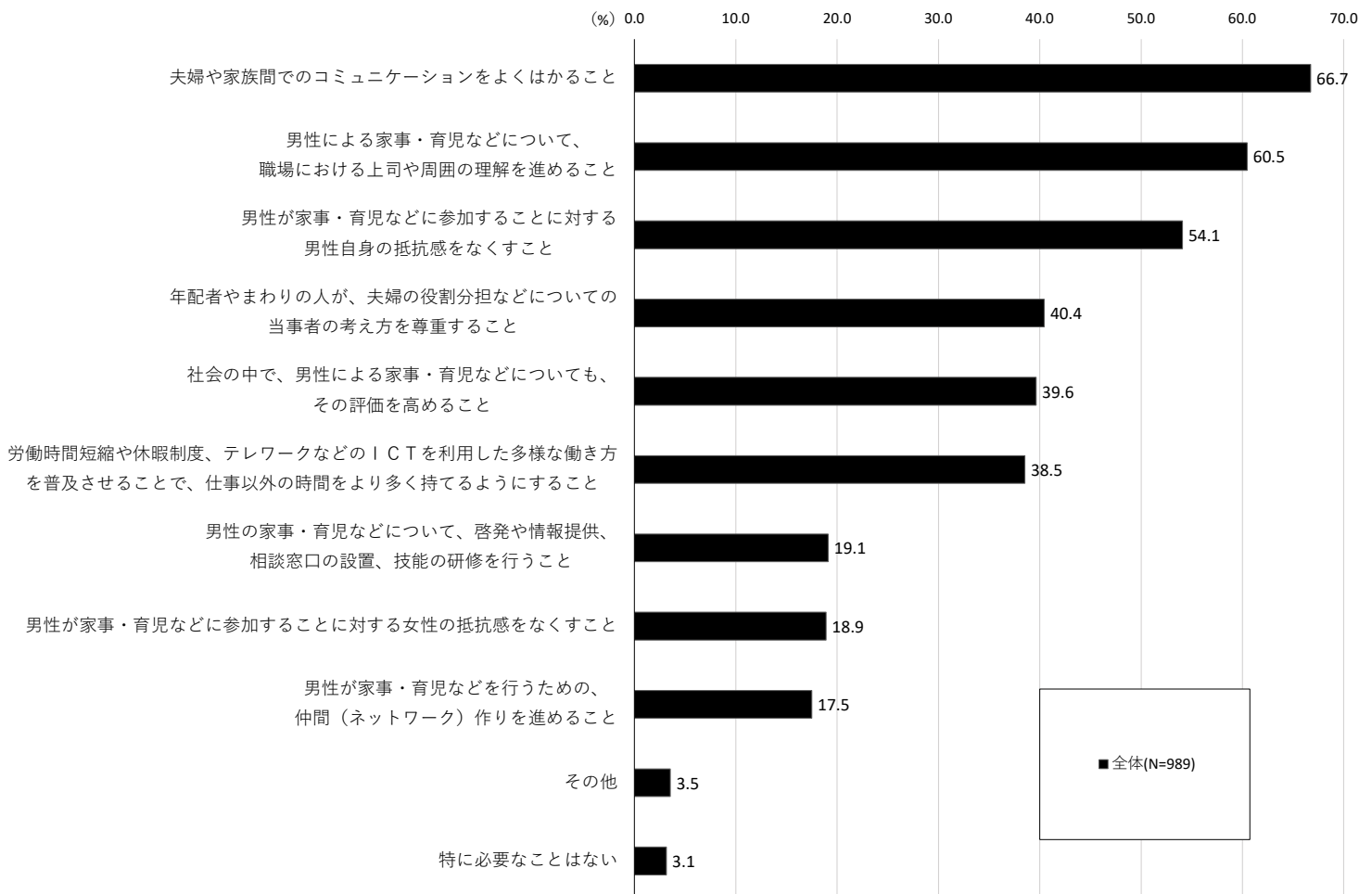
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

女性では「反対」が6割を超えているが、男性では5割を下回っている。



男性が家事や育児等に積極的に参加するために必要なこと（当てはまるもの全て選択）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多い。

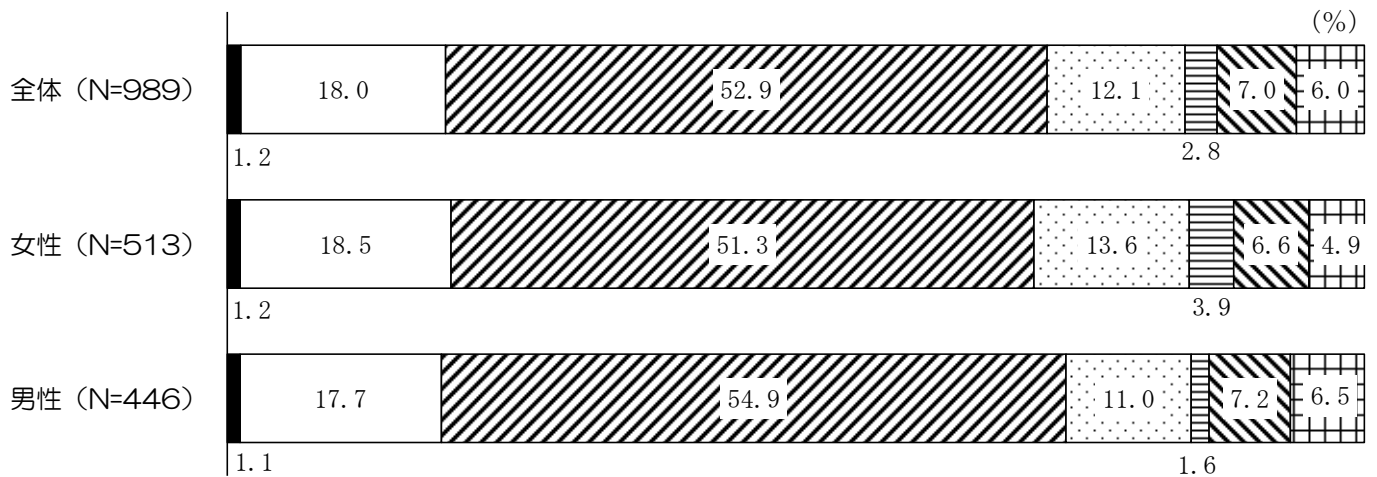


◆ 仕事と家庭生活や地域活動のバランスに関する理想と現実

理想

男女共に、5割以上の方が家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させたいと考えている。

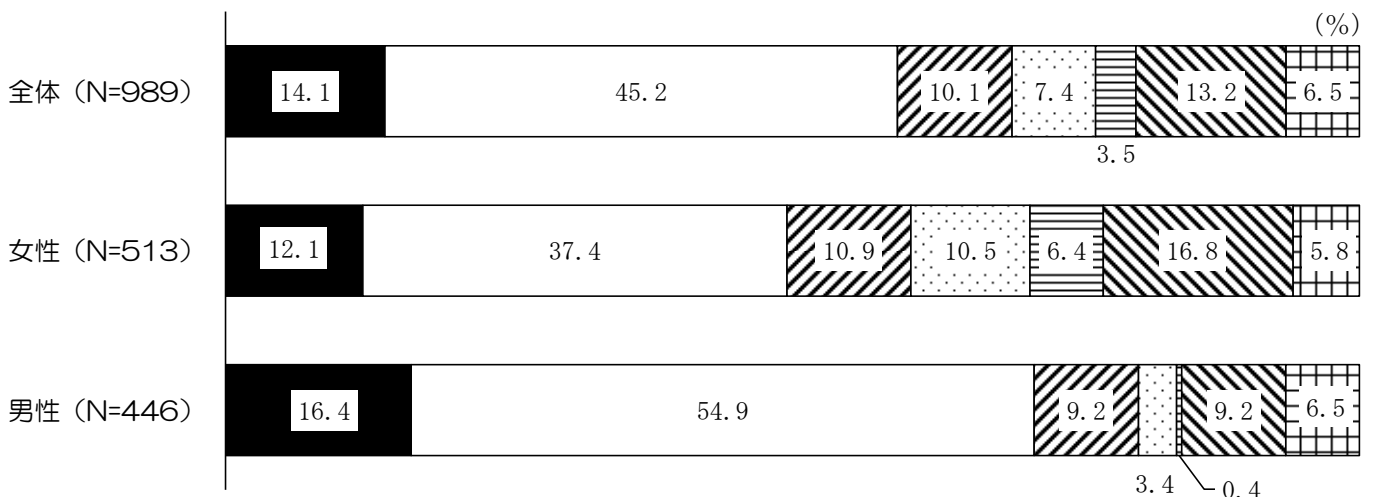
- 家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する
- 家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる
- ▣ 家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる
- ▢ 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



現実

女性では約5割、男性では約7割の人が仕事を優先している。

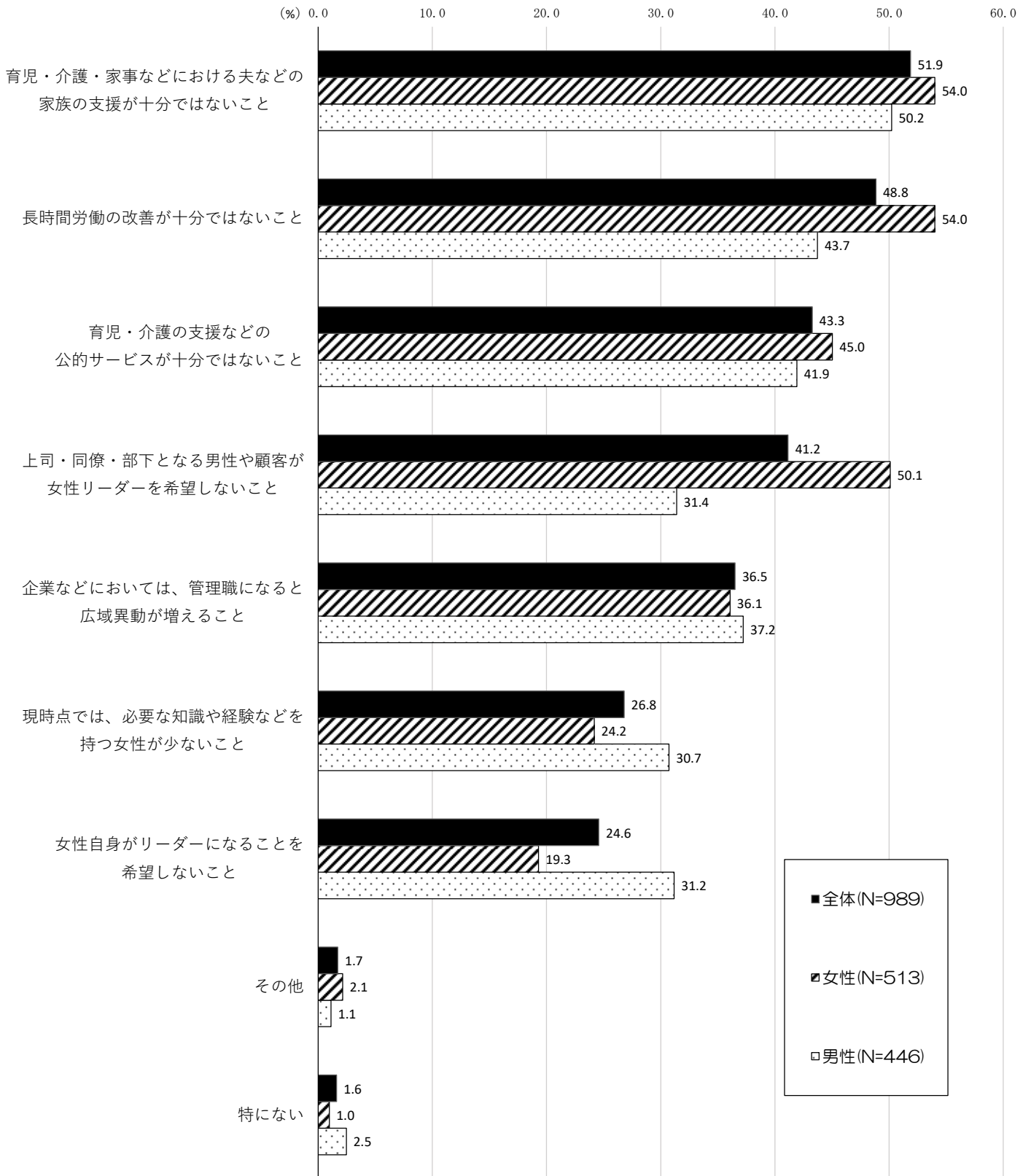
- 家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する
- 家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる
- ▣ 家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる
- ▢ 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



◆ 政策方針決定過程への女性の参画

経済分野で女性リーダーを増やすうえで障害となるもの（当てはまるもの全て選択）

男女共に、育児や介護等における家族の支援が十分ではないことと考える人が多い。

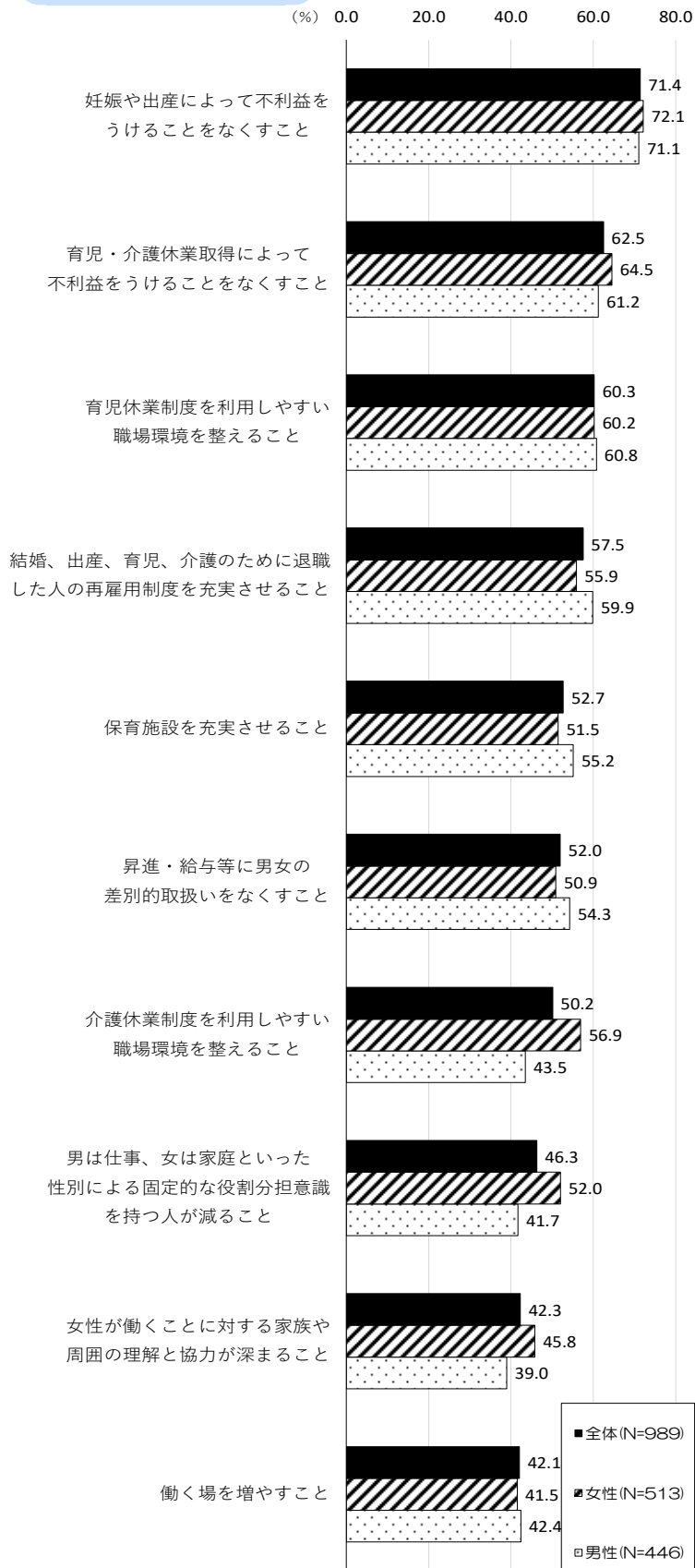


◆ 働きやすい環境づくりに必要なこと（当てはまるもの全て選択）

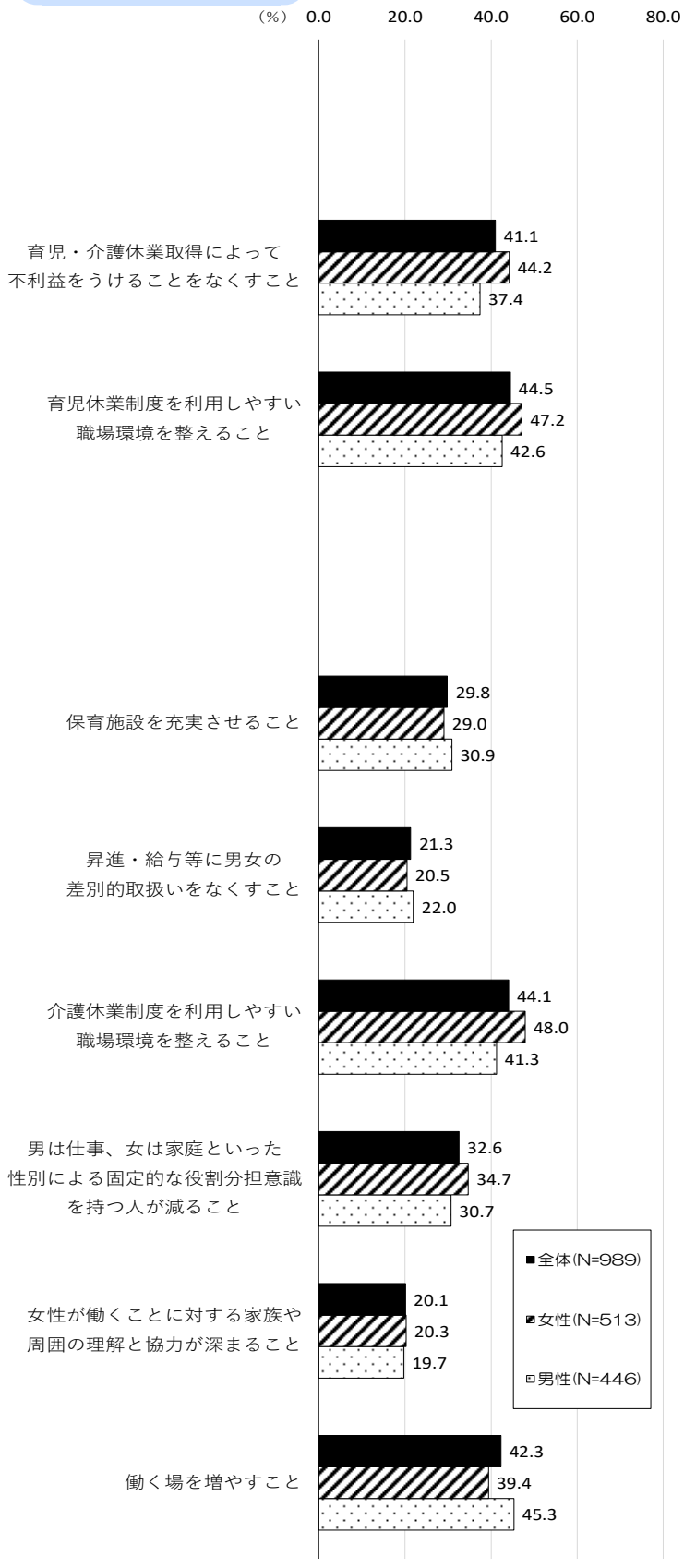
「女性にとって働きやすい環境づくり」には、出産・育児・介護と仕事を両立できる環境整備が必要と考える人が多い。

「男性にとって働きやすい環境づくり」には、育児・介護と仕事を両立できる環境整備に加え、働く場を増やすことが必要と考える人が多い。

女性にとって



男性にとって



※「女性にとって」の上位10項目を男女で比較

◆ 今後県が力を入れていくべき施策（特に重要と思うもの3つまで選択）

子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実、男女平等の視点に立った社会制度・慣行等の見直しを重要と考える人が多い。

